

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992600027		
法人名	有限会社 沙羅		
事業所名	グループホーム しらゆり		
所在地	幡多郡黒潮町下田ノ口2153		
自己評価作成日	平成25年7月16日	評価結果 市町村受理日	平成25年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が利用者一人ひとりの状態を把握できていて、小さな変化にも気づき早期の対応が来ている。また、四季折々の野山の移り変りを感じながら静かな環境のなかで思い思いに過ごして頂いています。家族や知人など面会者に対して気持ちよく過ごしていただき、いつでも気軽に来ていただけるように心がけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JgvosyoCd=3992600027-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年8月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民の提案を受け、事業所の近隣3地区の代表者が運営推進会議の委員に参加しており、意見交換をしながら地域の一員としての活動を広げている。特に、地域の草刈りや祭りの神輿担ぎには男性職員が参加し、事業所の存在感を高めている。津波対策では、地域の協力により今年度中に事業所の裏山に新たな避難場所の設置が予定されている。また、事業所の夕涼み会には、十数名の住民が参加し、踊りなどを通して楽しく交流が行われており、地域と互いに支え合う関係が築かれている。職員は地元の言葉で利用者に語りかけ利用者が納得のいく対応を徹底するようにしており、常に全体に目を配り、利用者の安全や困りごとの早期対応に努めている。職員も利用者も皆が感謝を言葉で伝えあい、和やかな雰囲気をつくっている。個人記録には、新たに利用者の気持ちや過去一年間の暮らしの要約を記載し始めており、事業所を利用者の安住の場所というビジョンの実現に向けて歩み続けている事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は何時でも見える場所に掲示して、理念を念頭において実践できるように話し合っている。	理念は目につきやすい場所に掲示して職員の意識付けを行っている。日々のケアでは、利用者一人ひとりの過ごし方やその時々々の意向を尊重し、利用者の穏やかな表情や笑顔を引き出せるよう、随時話し合いながら理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の民家とは一山離れているので、日常的な交流は出来ていないが、事業所の行事へ参加してもらったり、また、地域の初会や神祭等の交流などで、利用者も御神輿へ参拝できて、喜ばれている。	地域行事の情報を得て、地区総会、草刈り、祭りに参加している。小学校の運動会では、利用者向けの種目に参加して皆で楽しんでいる。事業所の夕涼み会には、住民が参加し一緒に踊りながら賑やかな時間を過ごしている。また、小学生の訪問も定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームや小規模多機能について、運営推進会議を通じて説明し理解を得ている。また相談があればその都度説明し、認知症や他のサービスについても対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、事業所内の出来事などの報告や、災害については委員会の度に率直な意見を出し合っていて一緒に考えてくれて今後のサービスの向上や取組について活かしている。	近隣3地区の代表者の参加や、議題設定など会議運営を工夫し、その成果を上げている。質疑応答や議題に沿った活発な意見交換が行われ、津波時の避難場所を確定する等運営に活かしている。会議録も分かりやすく改善されているが、評価後の目標達成計画に係る実践等が報告されていない。	今後は、運営推進会議において評価制度に基づく目標達成計画等一連の過程を報告し、相談する取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことや困ったことがあると、いつでも相談できて協力的に対応してくれている。	行政担当者には運営推進会議のほか随時に相談している。個別のケアに関することは地域包括支援センターに、制度に関することは町担当課に、気軽に相談できる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない理念に基づいて、拘束をしない介護に努めている。毎年研修会に参加して、学んだことを事業所の勉強会の議題として取り上げ、委員会の担当が中心になり全職員で取り組んでいる	毎年の外部研修には職員が順番に参加し、研修報告書をもとに全職員に伝達している。職員は身体拘束の弊害を理解し、研修を重ねることでチーム一丸となった目配りができつつある。外出したい利用者には、同行して気持ちに沿った対応を行っている。家族には、身体拘束をしない方針とリスクについての説明を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連の研修会に参加して、勉強したことを報告して虐待について再認識し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで、活用が必要な方はいなかったが、研修会へ参加し成年後見制度について、職員も理解できているので、必要性のある方にはパンフレット等で紹介していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に事業所の見学やグループホームについての説明や、他の利用者とお茶や会話をする等雰囲気を見てもらい、自宅訪問時には重要事項の説明や不安な事や疑問な点を尋ね、理解と納得できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やアンケートをお願いしたり、面会などで職員と会話を持つなど、意見や要望を聞く機会を設け、何かある時には、管理者へ報告している。また、玄関外へご意見箱を設置して、いつでも気軽にに入れてもらうようにしている。	利用者の意向は、生活の中で聞いたり表情等から推察してケアに反映している。家族については、家族同士で話し合える機会を設けるとともに、面会時に意識的に意見を聞くように努めている。また、入居時と年1回の家族会では、苦情申し立てのできる事業所の第三者委員会について説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会にて、職員の意見や考えを聞き、管理者会の議題として代表者に伝え、前向きに取り組んでくれている。	毎月のスタッフ会のほか随時に職員の意見や提案を聞いている。最近では、職員提案により食材の購入日を毎日から週3回に変更し、空き時間をドライブやレクリエーションにあてるよう改善している。事業所内で解決できない意見は、2カ月毎の管理者会で代表者も含めて検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準には、やや不満があるも個人の努力や実績をみて条件整備に努めてくれている。また職場の仲間との関係やその他の環境など職員一人ひとりがゆとりと向上心を持って仕事ができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修や勉強会等に参加できるように取り組み、参加者は学んだことを勉強会にて報告し共に向上できるように努めている。また、他の事業所との勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他の同業者との勉強会を行い、各事業所の取り組んでいることや困っていること等を話し合い、率直な意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学で知人が入所されていることがあったり、自宅で本人や家族と面談し不安なことや要望などに傾聴し安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や自宅へ訪問した際、家族が困っていることや要望について時間をかけて傾聴し、いつでも何でも気軽に言ってもらえるようお願いし、信頼関係が作れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況や要望を伺い、他のサービスの説明や希望に沿ったサービスが利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来ることはしてもらいながら、会話の中から本人についてより知ること、共に暮らす者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族が気軽に面会に来てくれて、何でも気軽に話し合える関係を心掛けており、家族との連絡を密にして本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活をしてきた慣れ親しんだ地域のお店はほとんどなくなり、地域の鏡開きに神社へ行き地域の方達と懐かしく会話ができるなど支援に努めている。	各利用者の馴染みの人や場所を把握し、それぞれの地元の神社への参拝や祭りに参加している。過去の仕事場を見て感動する利用者もあり、関係継続の大切さを実感しながら支援を行っている。隣接する小規模多機能居宅介護事業所の利用者とは、日常的な交流も続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で、利用者同士が関わり支え合える関係が持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入所されたり入院され退居された後も家族へ状態を伺ったり、相談があれば支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や日常の会話の中で、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。困難な方は表情や態度などから推測して望む生活が出来るように努めている。	「一人ひとりを大切に」という理念にも関連しており、日常の会話のなかで各利用者の意向を聞くとともに、表情や仕草、生活歴等を踏まえて利用者がやりたいことや望んでいることを職員間で話し合い対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に可能な限り伺い、日々の関わりの中で本人から初めて聞くことも多く、傾聴することで把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常のケアの中で一人ひとりの状態を把握し、本人が力量に応じて役割を持ったり、その日の状態に応じて一日を過ごしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中で計画に沿ったサービスが出来ているか、計画内容が現状に即した内容かその他の気づき等の意見を出し合い、家族や本人の意向を反映した介護計画を作成している。	利用者、家族、他職種等から情報を得て、利用者に行えることや言動の背景を把握して計画を作成している。モニタリングを毎月行い、計画の見直しは3カ月を基本とし、状況に変化があればその都度変更している。ただし、利用者の生活についての総合的な援助方針や他職種の情報の反映に乏しい。	利用者の気持ちや過去一年間の暮らしの要約等の記録を更に深めるとともに、利用者の生活がイメージできる総合的な援助方針、介護目標に沿って他職種や家族も役割をもち支援できるような計画内容などへのステップアップを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践を個々の介護記録へ記入し、担当者が月のふり返りとして実践の状態を把握して、カンファレンスにて報告や意見を出し合って介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のその時々で、家族や主治医と相談して、他のサービスも視野に入れて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設も地域の一員として受け入れてもらい、地域の総会や災害の説明会などにも出席している。また事業所の行事や地域の行事、小学生との交流などで楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望に沿って入所前からの医療機関へ受診されている方や、協力医療機関の月2回の往診時受診される方など、何かの時には相談できる関係を築きながら支援している。	利用者及び家族の希望する医療機関に受診している。協力医を希望する利用者は、基本的に月2回の訪問診療を受けている。その他の医療機関への受診は家族が対応しており、健康面や生活状況等の情報提供書を家族に渡している。受診結果は、家族と職員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化や気づきを相談し受診の必要性の判断や助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーや口頭にて説明し、面会や家族から状態の把握に努めている。退院時にはソーシャルワーカー他関係者と話し合う等、病院関係者との関係が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を伺い、事業所のできる事を説明している。重度化になれば主治医、家族を含めて担当者会議を行い、状態の説明や家族の意向を伺うなどして支援に取り組んでいる。	入居契約時に、重度化及び看取りに関する指針に沿って説明している。重度化の傾向が見られた時は、医師、家族、職員等でサービス担当者会議を開き、家族が事業所での看取りを希望する場合には、同意書ももらっている。その後も、段階的に話し合いを重ね、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用講習やマニュアルを作成し応急手当や初期対応の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の消火訓練や避難訓練を年2回行っている、推進会議の度に地震や津波について真剣に話し合っている。	事業所の防火訓練は、消防署や地域住民の協力を得て行っている。津波を想定した避難訓練は、車に乗車するまでの時間を測定している。津波の避難場所は事業所の裏山に確定し、今年度内に完成予定となっている。備蓄は、3日分を目安に食糧等を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報やプライバシー保護についても事業所の勉強会の議題として取り入れて、言葉掛けや対応などについて話し合い対応している。	プライバシー保護に関する内部研修を行い、職員の私生活においても情報漏れを防ぐことを徹底している。羞恥心を伴う介護場面では、他者に見られたり、聞かれないよう慎重に対応している。人格の尊重にあたっては、利用者のあるがままを受け入れることを大切にして取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で本人の思いや希望が聞き出せるような声掛けを行い、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで過ごせるように、職員は一人ひとりの生活のリズムを把握していて、その日の本人の状態に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装の好みや自分で鏡の前で髪をとかすなど、本人の満足できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中で、食べたいものや季節に応じたものなどを話し合い、新鮮な食材が入るとメニューの変更や、家族が育てた野菜も多く、下ごしらえや台拭き、終繕などできる事をしてもらっている。	献立は、利用者の希望や暦の上での行事等を考慮し、一週間ごとに作成している。山菜の下ごしらえは利用者にも人気があり、思い出話をしながら取り組んでいる。その他、テーブル拭きや食器洗い等、できることを職員と一緒にを行い、職員も同じものを食べ和やかに食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事ができるように、できるだけ多くの食材を使用して、水分補給については、スポーツ飲料やコーヒー、ジュース、ヤクルトなどを提供し十分な水分摂取ができるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に本人の力量に応じて、見守りや介助を行い、毎週土曜日には義歯洗浄剤にて洗浄を行っている。また、自歯でケアを拒否される方は、洗口液にてうがいをしてもらい対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	バランスの良い食事ができるように出来るだけ多くの材料を使用し、水分補給にはお茶以外にコーヒー、ヤクルト、ジュースなどを提供して、水分の摂取量をチェック表にて確認できるようにしている。	利用者一人ひとりの排泄のサインと排泄間隔を把握し、トイレで排泄できるよう支援している。排泄用品は、利用者毎に失禁量を見極めてそれに見合う用品を使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便ができるように、繊維の多い食材の使用し、適度な運動や十分な水分摂取に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間は設定せず、その日の希望に沿って対応している。入浴を拒否される方には、声掛けのタイミングや人が変わって対応するなどの工夫をしている。	入浴時間は特に決めていないが、概ね午後の時間帯に入浴を支援している。利用者の希望に応じ、毎日でも入浴可能な体制としている。入浴を拒む利用者には、声かけの工夫や職員が交代して誘う等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は一人ひとりの生活のリズムを把握しており、ソファや和室で横になったり、その日の状況で臥床時間を設けたりして、ゆったりと過ごしてもらい、夜間もその人のリズムで安心して眠ってもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を個人のケースへファイルし薬の内容や副作用等についての把握に努めている。服薬マニュアルに沿って服薬支援を行い誤薬防止を徹底している。症状の変化時には主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握して、個人のできる事を力量に応じて、日常の役割ができています。年三回の家族同伴の行事は楽しみごとの一つになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホームの周辺を散歩したり、春と秋の気候の良い時期には、全員で外出に出かけたり、希望に沿ってドライブ行っている。また、家族と一緒に外出に行かれる方もいる。	気候のよい時期には、毎日、交替で散歩に出かけている。花見や外食等の行事のほか、利用者の希望に応じて2～3人でドライブに行っており、車いすの利用者も一緒に楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は小額の小遣いを自分で管理していた人も居られたが、今はない。全員事務所で預かっていて、必要に応じて職員が買い物も代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があればその都度対応している、手紙の要望はないが、年賀状など家族に出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアには、季節の節目が感じてもらえるように装飾を行い、フロアからは菜園や田園が見えて、四季の彩が広がり、ゆったりと居心地よく過ごしてもらえるよう工夫している。	共用空間は、畳コーナーもあって広々とし、大きな窓からは外の景色が一望できる。居室入口にヒマワリの花を置き、壁に花火の絵が飾られるなど、季節感に配慮しながら全体的に落ち着いた雰囲気になるよう心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士がソファでテレビを観たり、居室で一人で臥床されたり、和室で洗濯物をたたんでくれたり、それぞれが自由に思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には出来るだけ自宅で使い慣れた馴染みの物を置いてもらい、本人の作ったカレンダーや家族の写真を飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	居室にはベッドを設置しているが、安全面や希望に応じて畳の使用もできるようにしている。また、利用者が使い慣れたタンスや小物、テレビ、家族の写真等を置いて、個性的な居室となる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりのできることを把握し、その人のできる行動を見守りながら安全に過ごせるように工夫している。トイレや自室がわかりやすいようにプレートを下げるなどの工夫をしている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない